

目次

「知的財産教育ガイドンス」発行にあたって

1. 現代GP知財教育(取組概要)

(1)取組概要	1
(2)知的財産教育講義実績	5
(3)知的財産教育講義マップ	7

2. 医学研究者向け知的財産教育講義ガイドンス

【基礎編】

(1)基礎:医学研究と知的財産	8
(2)基礎:研究成果の保護 —研究ノートの活用について—	9
(3)基礎:本学における知的財産権の管理と活用について	10
(4)基礎:知的財産権入門	11
(5)基礎:生命科学と特許	13
(6)基礎:研究のオリジナリティを高める先行文献調査 —特許におけるその意義と実際—	15
(7)基礎:バイオ・医学分野の先行文献調査の実際	17
(8)基礎:研究成果の利用・活用と契約・法律	19

【応用編】

(9)応用:特許明細書の構造と先行文献調査 —医療関連発明を中心として—	21
(10)応用:海外における特許の取得について	23
(11)応用:国際契約にどう対処するか —Non Disclosure Agreement等を手がかりに考える—	25
(12)応用:契約の基礎 —英文MTA契約(Material Transfer Agreement)などを読む—	27
(13)応用:創薬技術・ビジネス論	29
(14)応用:バイオ・創薬・医療分野における技術移転	31
(15)応用:企業知財マンからみた産学連携	33
(16)応用:バイオメディカル分野の研究の特許化について	35
(17)応用:大学における産学連携・知的財産活動のポイント	37
(18)応用:知的財産の事業化 —臨床現場から生まれるビジネス—	39
(19)応用:大学におけるバイオ基礎研究成果の知財戦略	41

(20)基礎～応用:利益相反(COI)の考え方…………… 43

3. 執筆者の紹介 …………… 45

— 本書作成の意図 —

1. 知的財産制度等について初心者である医学生や医学研究者に対して、入門的説明（押さえておくべき知財知識の手引き）を与えるものとする。
2. 日常の研究活動のさまざまな面にわたり、医学研究者が研究成果を最大限に活用できる（＝企業との共同研究や技術移転）ように、意識付けする（きっかけを与える）ものとする。
3. 研究活動や特許出願等の戦略・方針の選択・決定にあたっての補助資料とする。

- 【利用方法】 ●本学における知財教育コースのガイダンス資料として
●地域医療従事者が知的財産知識を学ぶ基礎資料として
●医学研究者向け知的財産に関する意識啓発資料として
●遠隔知的財産教育（知財 e-learning）の内容紹介・導入資料として

【配布先】 ●本学の学部生・大学院学生・教職員